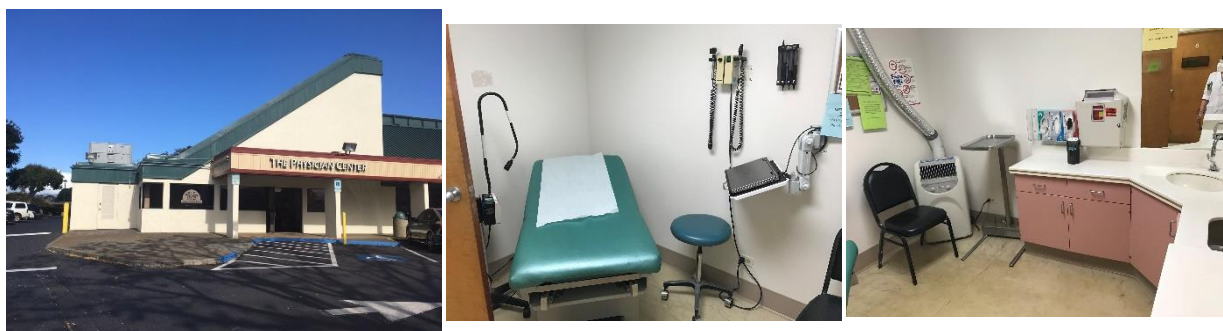


Physicians Center at Mililani (Department of Family Medicine and Community Health, University of Hawaii—John A. Burns School of Medicine)での研修

和歌山県立医科大学付属病院

研修医 2 年目 石亀 綾奈

ハワイ大学医学部(John A. Burns School of Medicine: JABSOM)はホノルル郊外の海沿いにある開放的なキャンパスですが、今回私が 3 週間研修させていただいた Physicians Center at Mililani (PCM)はオアフ島中心部に位置する Mililani という町のプライマリケアクリニックです。ハワイ大学の Family Medicine を専攻するレジデントのためのプライマリケア外来教育施設でもあります。オアフ島中心部の住民の医療支援やハワイの僻地医療に貢献できる家庭医を育成することがこの施設の役割です。なぜ私がこの施設で研修することになったかという、研修終了後に僻地で一般内科医として勤務する義務年限があったため、アメリカでの家庭医の制度、Family Physicians の働き方を学びたかったからです。



PCM での業務内容は Family Medicine を専攻するレジデントがそれぞれ割り当てられた外来患者を午前 5-6 人、午後 5-6 人診察します。レジデントは午前午後でそれぞれ 3 人ずつくらいいます。特に主治医は決まっておらず、患者さんは毎回違うレジデントの診察を受けることになります。ゆっくりと時間をかけて問診、診察し症状に合わせて処方や処置を行います。患者さんごとにアセスメントを考えた上で、その日勤務している Supervisor にプレゼンします。そこでアセスメントのアドバイスをもらったり、処方方を相談したりします。Supervisor の許可が出て診察終了です。学生の実習がいるときは学生がメインで問診、診察をしてレジデントとともにプレゼンします。診察内容は高血圧、高尿酸血症など慢性疾患から腰痛、ケガの処置、避妊具の挿入など多岐に渡ります。小児のワクチンや、乳幼児健診、乳がん検診、妊婦健診までします。地域住民のプライマリケアを担うため、がん検診を受けているか等も毎回受診時に確認しています。受診時に状態が悪ければ ER のある病院に紹介します。一人のレジデントがこのように様々な疾患を診ることができることに驚きました。そのためにも産婦人科実習、小児科実習、集中治療室での実習、循環器実習など様々なプログラムを通してレジデントはスキルアップしています。家庭医は出産介助もできるそうです。私もできる範囲で実際患者さんに問診、診察させていただき、レジデントと一緒に処方方を考えたりしました。英語でのプレゼンの難しさも痛感しましたが、自分のアセスメント能力の低さも実感しました。ただ、日本でいう 3 年目以降もこのように上級医に指導してもらいながら臨床をできる点は

良いところだと感じました。日本ではあまり問題にならない点で一番驚いたことは患者さんが入っている医療保険によってできる検査や処方できる薬が分けられていることです。保険料が安い人は安い検査、薬しかもらえません。それを医師側が考慮しなければならないことが驚きでした。PCM は教育機関である代わりに医療費が安いので、低所得の方が多かったためこの問題が多くありました。



アメリカでは家庭医がまず診察し、必要と考えれば専門医の外来に紹介、さらに入院が必要となれば紹介と段階を踏む必要があります。患者さんにとってはスムーズに医療を受けることができない欠点があると感じましたが、分業がなされているという点で分かりやすと感じました。外来医は外来のみみずし、入院医は入院患者だけを見ます。入院医も 18 時になれば申し送り勤務交代するため、主治医という概念はあまりなく、今日の担当医という認識でした。日本では主治医という概念が強いですが、医療スタッフの QOL を維持する面でも今後日本でも導入していくことができれば勤務体制も変わっていくのではないかと思います。

PCM 以外にも日曜日には教会でホームレスの人々に無償で医療を提供するプログラムに参加させていただきました。アメリカではホームレスを診ない病院も多いためです。限られた医療資源で問診、診察を通して処方します。野外生活の中で皮膚の感染症をもっている方も多く、そちらの処置も行いました。ハワイは温暖な気候からホームレスが多く暮らしています。普段イメージしていたハワイの印象とは違ったハワイの別の一面も学ぶことができました。



他にも、入院病床や ER を備えた The Queen's Medical Center や Pali Momi Medical Center を見学させていただいたり、JABSOM の学内見学や教育施設、研究室の見学もさせていただきました。レジデントが行っているケースカンファレンスに参加したり、薬剤師の方とネットでの遠隔カンファレンスに参加させていただいたこともとても勉強になりました。それぞれが意見を出し合って診断につながるケースカンファレンスを英語で行うのは難しかったですが、基本的な考え方は日本と同じであることがわかりました。アメリカらしいと感じたのはほぼ全員から様々なポイントについて意見が飛び交います。日



本の医学部とハワイ大学医学部の交流を指揮してくださっている Dr. Izutsu とお話しする機会もありました。



ハワイ大学はアメリカ本土とは違って、島内で完結できる医療、ハワイでの地域医療を担ってくれる医師の育成を目指しているところです。今回の留学を通して、日本とは違った、アメリカ本土とも違った医療を学ぶことができ本当に貴重な経験をする事ができました。ハワイ医療で参考にしたい良いところや、逆に日本

の方が優れているなど感じる点など様々な違いを学ぶことで今後自分が医療を行う上で参考にしたいと思います。医学教育という面でも学ぶことが多かったです。この貴重な経験をする機会を与えてくださった研修センターや国際交流センターに感謝しながら、この経験を今後の臨床や教育の面で生かしていきたいと思います。

